

1. 目的

中間処理施設がクリーン（迷惑施設ではない。）で、新たなエネルギー源、災害時の拠点、環境学習の拠点である優れた都市施設であることを広く住民の皆様にご理解を深めて頂き、次期中間処理施設候補地選定の一助とする。

2. 基調講演とパネラー

利益誘導と受け止められないよう、廃棄物処理施設に特化した専門家ではなく、幅広く環境問題を分かりやすく関していただける学識者。

（例：（株）環境文明研究所長 加藤三郎氏

環境行政の草分けで、地球環境部長で環境庁退官。

合併浄化槽の普及に、替え歌を作る等、そふとな PR

3. シンポジウムの主たるパネラー

印西地区内に居住している大学生等の方

印西地区内の大学等に通学している方

<主たるパネラーを学生とする理由>

- ①第1回会議で、山本委員から「私達の子孫にとっても非常に大事な問題」とのご意見があったこと。
- ②次期中間処理施設の最大の利害関係者は、これからの世代の若年層であること。
- ③検討委員会委員は40歳代以上の世代で構成され、また、これまでの会議傍聴人の世代も同様と思われ、若年層が本検討に全く参画していないこと。
- ④パネラーが学生であれば、若年層のシンポジウム参加者数に期待が持てること。
- ⑤前向きな意見提出が期待できること。（環境教育をきちんと受けた世代）
- ⑥若年層が中間処理施設にどのようなイメージ・価値観・発想を持っているのか是非確認したいこと。

4. その他のパネラー

母親・女性の目線で、廃棄物問題を語るができる人物

基本計画検討委員会の市民公募の委員でエネルギー問題に詳しい委員

5. スケジュール（案）

平成25年12月上旬	ごみ処理基本計画の素案の決定（予定）
平成26年1月上旬	パネラー募集及びシンポジウム開催のお知らせ
平成26年1月下旬	パネラーの選考
平成26年2月下旬	シンポジウムの開催
平成26年6月頃	2次候補地との意見交換会で、シンポジウムで寄せられたご意見等を紹介
平成26年7月	シンポジウムで寄せられたご意見を添えて管理者に最終答申